

## 北九州市折尾まちづくり記念館指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和3年10月7日(木) 13:30~17:00
- 2 場 所 折尾総合整備事務所 大会議室  
(北九州市八幡西区大浦二丁目13番7号)
- 3 出席者(検討会構成員) 赤川構成員、植田構成員、松木構成員、桑原構成員  
(事務局) 建築都市局折尾総合整備事務所長、まちづくり支援担当課長、  
開発担当係長、担当職員
- 4 会議内容
  - 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明
  - 構成員の互選により、座長を選出
  - 応募団体より提案概要に関してヒアリング

### 【(ア) 北九州市折尾まちづくり推進チーム共同事業体】

- ・ 提案概要の説明
- ・ 質疑応答

(構成員) 隣接する八幡図書館折尾分館との連携は何か考えているのか。

(応募団体) 学生や地域の人達がイベントや展示を行っていく際は、常時図書館と連携・協力をしながらやっていきたいと考えている。

(構成員) 館長が1週間18時間の勤務となっているがどういったことをするのか。

(応募団体) 館長は、1日あたり3時間程度を週6日勤務する想定である。対象年齢は60歳代で、記念館の統括として主にマネジメント業務に従事することとしており、実務は職員が行う。

(構成員) 防犯カメラの設置は考えているのか。

(応募団体) 機械警備は、感熱センサー等による対応としている。なお、日常の管理体制については、隣接する図書館の管理者と連携・協議しながらやっていきたいと考えており、防犯カメラの設置についてもその中で検討していきたい。

(構成員) 学校法人が指定管理者に応募することとなった動機と経緯について教えてほしい。

(応募団体) 指定管理者に応募した動機については、折尾の地で長年にわたって地域に根差した教育活動を展開しており、地域貢献をしたいという思いが1番にある。この地域貢献を通して地域や近辺の学校の方々との

連携強化を図ることで折尾の活性化につながるものと考えており、今回本学が提案した趣旨である。

- (構 成 員) 共同事業体としてセルフがどういった役割を担うのか教えてほしい。
- (応募団体) セルフについては、企業ネットワークを活かしたコンサルティング事業の役割を担っている。まちづくりイベントの開催や、折尾地区の大学生や高校生の地元就職促進のため、ジョブカフェや企業説明会等の企画を行う。
- (構 成 員) 提案の中で学生の参画とあるが、学生とは九州共立大学(福原学園)だけなのか。
- (応募団体) 本学以外の折尾地区の大学・高校に参画をお願いしており、一緒になって事業をやっていきたくと考えている。
- (構 成 員) 共同事業体の出資割合が90(福原学園)対10(セルフ)の割合だが、原則この割合で事業を実施していくということによいか。
- (応募団体) その通りである。

- ・ 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入。

#### 【(イ) 協同組合折尾商連】

- ・ 提案概要の説明
- ・ 質疑応答

- (構 成 員) 幅広く様々な媒体を使って情報発信をするという提案であったが、それぞれの媒体(紙、SNS等)をどういった使い分けをして、どういった人達に届けていくのか。
- (応募団体) 3つの柱で考えている。1番目は、折尾地区の周辺住民(主に高齢者)に参加してもらえる事業については、印刷媒体が有効であると考えており、市政だより等を活用する。2番目に、学生を初めとする若年層をターゲットにした事業については、インスタグラムやライン等のSNSを活用する。3番目は、広域発信としてラジオとYouTubeを活用し、全国発信をしていく。
- (構 成 員) PR動画を募集する際に、選ばれた人達に特典等はあるのか。
- (応募団体) 現状では、コンテスト、報酬、懸賞といった形での取組みは考えていない。既に、地域づくりやSDGsに関する取組みを積極的に展開している学生グループがコンテンツ作りに積極的に参画してくれており、その公开发表の場として、この施設を活用していく。これが発展していくと、コンテストや公開イベントになっていくものと考えている
- (構 成 員) 防犯対策で、防犯カメラの設置を考えていることは良いアイデアだと思う。警察への非常通報システムはあると思うが、火が発生した場合は、消防への非常通報システムとなっているのか。

- (応募団体) 消防にも通報が行くようになっている。
- (構成員) 館長の目途はついているのか。
- (応募団体) 指定管理施設の館長経験者を採用する予定である。
- (構成員) 折尾での就労機会を創出すると提案しているが、指定管理者としての雇用以外はどういったものを想定しているのか。
- (応募団体) 大きく3つの柱で考えている。1番目は、折尾商連に加盟している事業者自身が活動を活性化して、この施設を使いながら、サービス開発やプロモーションをする場として利用していく。2番目は、学生、子育て世代、高齢者の方々が就業のための機会を得るために、様々な講座やプロモーション、企業活動を募集しながら、自主事業の形で運営していきたい。3番目は、新しいビジネスを把握し、この折尾地区で人材を募集・採用したいといった活動の拠点としてこの施設が活用できると考えている。

- ・構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入。

#### 【(ウ) 折尾ファブリック共同事業体】

- ・提案概要の説明
- ・質疑応答

- (構成員) 正確な折尾の歴史を伝えていくための情報に関する責任者が必要であると考えますが、どういった人に責任を持って監修してもらうのか。
- (応募団体) 折尾の歴史に詳しい方々を知っているので、そういった方々とタッグを組んでプロジェクトを進めることで正確性を担保したいと考えている。
- (構成員) 館長の勤務時間がフレックス制になっているがどれぐらいのペースで施設の方に来る予定なのか。
- (応募団体) 館長は、ピープラスがやる予定であり、まちのコーディネーターという位置づけで考えている。また、ピープラスの事務所が折尾にあるため、基本的には折尾に滞在しており、その時間は施設に来て館長としての業務をやる予定である。
- (構成員) 防犯カメラの設置は考えているのか。
- (応募団体) 市の業務仕様書には、防犯カメラの設置を義務付けられていたわけではなかった。図書館との複合施設でもあるため、状況に応じて、防犯カメラの設置が必要であるか考えていきたい。
- (構成員) 折尾で従来行われてきたイベントや地域活動等との連携はどのように考えているのか。
- (応募団体) 従来のイベント事にも当方から積極的に参画をさせていただき、そのスタッフを一員として関わって行けたらと考えている。また、地

元で活発に動いている人と一緒になって汗をかいていくことで地域との繋がりづくりをしていくことが大事であると考えている。この記念館という場所が大いに役立つと考えているし、みんなが活動している発表の場にもなるものと考えている。

(構成員) 障害者の方が参画した活動も考えているのか。

(応募団体) 障害者の方々が参画した形で事業を進めていくことは大切であると考えている。また、人員配置では、いわゆる窓口受付業務というのではなく、人と人の出会いや、まちと資産の結びつけをコーディネートする事ができる人材を採用したいと考えている。多様な方々に対して全ての門戸を開ける館にしていきたい。

(構成員) もし図書館を管理するとしたら、まちづくりのプロジェクトのあり方と図書館の施設管理のあり方とどうマッチングできると考えるか。

(応募団体) 図書館というものがその姿勢や、やり方、まちの繋がり方をどういう風にやっていくかで地域全体が変わっていくものと考えている。学習席としては、図書館ではなく、記念館のフリースペースを使ってもらっても良いと考えている。記念館に行けば、本も資料も司書の知識にも出会えるし、横では寛ぎながら色々な人に出会えるという複合スペースがつかれるのではないかと考えている。

(構成員) 学生を呼び込むためには情報発信が必要だと思うがそこはどう考えているのか。

(応募団体) ピープラスが実施しているプロジェクトに約300人の学生が参画しており、常時そのメンバーとは繋がりがある。また、折尾には約30人の学生が企画運営に携わってくれており、人が人を呼ぶというのが1番だと考えている。また、スタッフとしてインターンのような形で関わられるよう、全国の学生にも呼びかけていき、若者同士の繋がり合いをつくりながら、この場所をうまく活用していきたい。

(構成員) 約300人が参画しているのはどういったプロジェクトなのか。

(応募団体) 「カタリバ」というプロジェクトで、学生が企画運営をしており、学生がスタッフとして高校に出向いていくものである。ここに参加したことがある学生達が年間約300人いる。

(構成員) そのメンバーもこの折尾の活動に参画する可能性があるのか。

(応募団体) 学生自身に興味があればその可能性もある。

(構成員) 学生達は常に更新されているのか。

(応募団体) プロジェクトが毎年あるので、そのプロジェクトに参加した学生が登録されていく。毎年、卒業していく人や新しく入ってくる人もいるため、常に更新されており、学生が学生を呼んでくるという形になっている。

・構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入。

○ 構成員は、各自得点を記入したものを発表。その後、構成員全員で意見交換

(構成員) (ア)は、代表者である福原学園が地元で学校を運営しているので、地元との関わりも強く安定感や信頼感は強い。情報発信を紙媒体で行うという提案は若者向けではなく、年齢層が上の方を対象とした広報であると思う。ただし、知識レベルでいうと歴史の情報を後世に伝えていく信頼感は抜群だと感じた。

(イ)は、これまで折尾の地元の人達を盛り上げてきた実績があるというのは分かるが、今までやってきたことの延長線上だと感じた。

(ウ)は、新しいことに挑戦している提案内容であった。ターゲットを若者に絞り込んで、やりたいことが明確になっているが、地元の人や高齢者の人達が置き去りにされているとも感じた。

(構成員) (ア)は、学校の活動をこの記念館でしたいといっているように感じた。また、事業の収支計画等については問題がないと思う。

(イ)は、今まで(イ)が取り組んできたことの延長だと感じた。ただし、学生だけでなく企業等を巻き込んだ提案となっているため、世代を広くとらえている印象も受けた。

(ウ)は、学生を育てる視点で面白いことをしようとしている提案は良かったと思う。地域にうまく溶け込むことができれば良いのではないだろうか。

(構成員) (ア)は、少し硬いイメージを感じたが、悪いイメージではない。

(イ)は、これまで通りのイメージであった。

(ウ)は、プレゼンテーションが上手で提案内容も最先端であったと思う。ただし、過去の実績を大きく自己評価しているように感じたこと、また、折尾での実績がないことが心配だ。

(構成員) (ア)は、代表者である福原学園は地元の母体としては申し分なく、そつなくまとまっているので安心感はある。

(イ)は、この施設でなくてもできる提案内容であったと感じた。

(ウ)は、意欲があり管理運営のイメージはよく伝わってきた。ただし、高齢者への配慮があまり見えなかったこともあり、地域とうまくやれるのか疑問。

○ 各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての各団体の評価レベルを決定

○ 事務局は各団体の合計得点を発表し、検討会としての検討結果（総合的な所見）について協議

## 【総合的な所見】

3団体ともにそれぞれ特徴のある提案内容であり、合計得点及び項目毎の得点も僅差であった。(ア)は、代表者である福原学園が地元の学校法人であり、長年大学等の経営や地域活動を行ってきた実績があるため安定感がある。(イ)は、これまでの地域活動や実績は評価できるが、今までの活動の延長線上に感じられた。

(ウ)は、若者を育てる提案は評価できる一方、ターゲットが若者に偏っており、地元との連携がうまくいくか不安がある。

検討会としては、合計得点や提案内容を総合的に勘案し、(ア)北九州市折尾まちづくり推進チーム共同事業体が指定管理者として相応しいと判断する。市は、検討会における議論を参考に、最終決定を行われたい。

なお、付帯意見として、「これまでの折尾地区における地元の活動内容や地域特性を理解し、地域住民や関係団体等との連携や協働による事業展開が望まれる。また、各種活動の参加者の募集等に当たっては大学間で不公平にならないよう配慮していただき、広域的な情報発信(SNS等)についても指定管理業務開始後すぐに対応していただきたい」を付す。

- 事務局より、今後の指定管理者選定に関するスケジュールなどの説明を行い、検討会を終了。